

(件名) 静岡県内におけるスマートIC整備効果

～静岡県内のスマートIC整備における効果をとりとめました～

静岡県内のスマートICは、2007年に初めて設置され現在まで12箇所が開通し、現在3箇所が事業中となっています。

現在までのスマートIC整備による効果をとりとめましたので報告します。

<スマート IC 整備による主な効果>

- 県内のスマート IC の利用交通量は、設置直後と比べ約2倍（県全体で4万台/日）
- 高速道路の IC に 10分以内にアクセスできる人口が約22万人増加
- スマート IC 周辺では企業立地が進行し製造品出荷額が増加傾向
- 最寄の高速道路の IC がスマート IC に変わり、高次医療施設への搬送時間が短縮

■問い合わせ先

中日本高速道路株式会社 東京支社 広報・CS課 TEL：03-5776-5257（直通）
静岡県スマートIC協議会事務局（静岡県 交通基盤部 道路企画課 高速道路班）
TEL：054-221-2938（直通）

静岡県内スマートICの整備効果 設置されたスマートICの概要

- 静岡県内のスマートICは、2007年に初めて設置され、2019年9月までに12箇所が開通。現在、3箇所が事業中。
- 利用交通量は、県全体で約4万台/日にのぼり、スマートIC設置直後と比較して、約2倍に増加。高速道路が利用しやすく、より身近な存在に。



静岡県内スマートICの利用交通量

| 高速名 | スマートIC名 | 市町名 | 開通年月日 | 開通翌月の 利用交通量(台/日) | 2019年同月の 利用交通量(台/日) | 伸び率 |
|-----|------------|------|------------|---------------------|------------------------|------|
| 東名 | 足柄 | 小山町 | 2019年3月9日 | - | 1,800 | - |
| | 駒門 | 御殿場市 | 事業中 | - | - | - |
| | 愛鷹 | 沼津市 | 2016年3月19日 | 2,900 | 4,800 | 1.7倍 |
| | 富士川 | 富士市 | 2007年4月1日 | 1,400 | 4,200 | 3.0倍 |
| | 日本平久能山 | 静岡市 | 2019年9月14日 | - | - | - |
| | 大井川焼津藤枝 | 焼津市 | 2016年3月12日 | 4,600 | 7,700 | 1.7倍 |
| | 遠州豊田 | 磐田市 | 2007年4月1日 | 900 | 2,600 | 2.9倍 |
| | 三方原 | 浜松市 | 2017年3月18日 | 3,800 | 7,200 | 1.9倍 |
| 館山寺 | 2019年3月17日 | | - | 2,000 | - | |
| 新東名 | (仮称)小山 | 小山町 | 事業中 | - | - | - |
| | 駿河湾沼津 | 沼津市 | 2017年3月18日 | 1,200 | 2,700 | 2.3倍 |
| | 静岡SA | 静岡市 | 2012年4月14日 | 1,900 | 1,300 | 0.7倍 |
| | 遠州森町 | 森町 | 2014年3月29日 | 700 | 1,400 | 2.0倍 |
| | (仮称)新磐田 | 磐田市 | 事業中 | - | - | - |
| | 浜松SA | 浜松市 | 2012年4月14日 | 2,300 | 2,800 | 1.2倍 |
| 合計 | | | | 23,500 | 38,500 | 1.6倍 |

※開通翌月の利用交通量:開通の翌月の日平均交通量。1日の場合は開通月の日平均交通量
 ※2019年開通のスマートICについては、2019年4月の日平均交通量

静岡県内スマートICの整備効果 高速道路へのアクセス向上

- スマートICが開通したことで、静岡県内のIC間距離は、開通前の平均約14kmから2020年度末には約9kmに短縮し、更に利便性が向上。
- 高速道路ICに10分以内でアクセスできる人口は、開通前と比較して約22万人増加。
- IC10分圏の事業所数は、開通前と比較して約1万事業所増加。
高速道路へのアクセスが向上し、企業活動へ寄与。

高速道路ICへの10分圏域の変化



算定方法: DRM29031による規制速度・距離を用い算定

静岡県内の平均IC間距離の推移

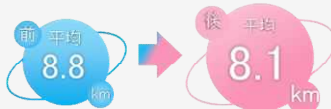
【静岡県内の東名+新東名高速道路の平均IC間隔】

(SIC開通前) (2019年9月現在) (2020年度末)



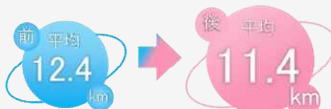
【東名高速道路】

(2019年9月現在) (2020年度末)



【新東名高速道路】

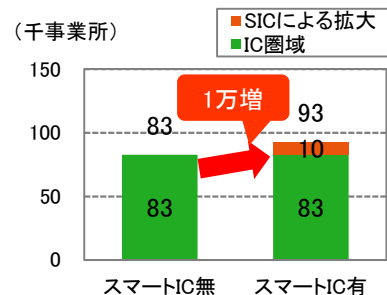
(2019年9月現在) (2020年度末)



2019年9月現在: 静岡県内スマートICは12箇所
 2020年度末: 静岡県内スマートICは開通予定を含む15箇所

IC10分圏における事業所数の推移

・スマートIC設置により、高速道路のIC10分圏の事業所数が約2割増加。高速道路へのアクセスが向上。



資料: 地域メッシュ統計 (H26年経済センサス)

静岡県内スマートICの整備効果 観光の活性化を支援

- スマートICが整備されたことで、高速道路と主要な観光地のアクセスが向上。
- 観光入込客数が増加した施設もあり、観光産業の振興に貢献。

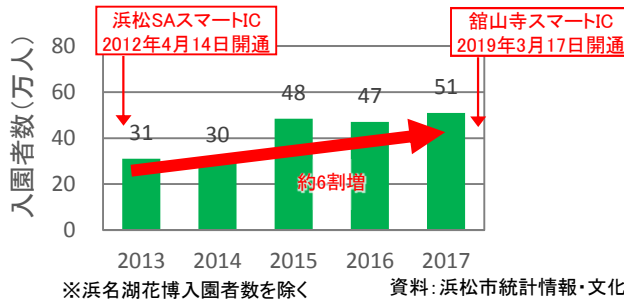
静岡県内の主要な観光地



■はまつフラワーパーク



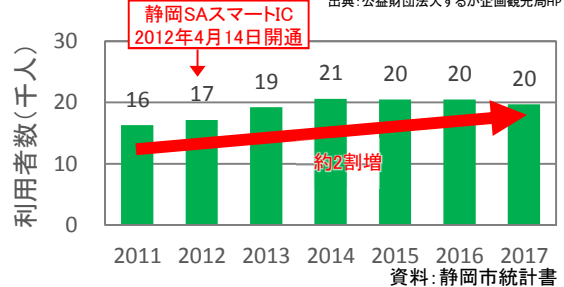
出典: はまつフラワーパークHP



■湯ノ島温泉浴場



出典: 公益財団法人するが企画観光局HP



【観光関連の企業や公共団体職員の声】



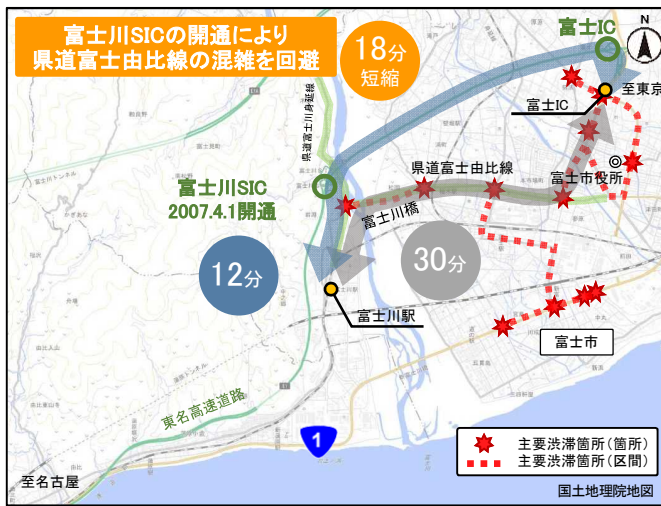
- ・愛知、三河方面のアクセスが良くなり、当社への利用回数が多くなりました。(浜松市内温泉施設)
- ・館山寺スマートIC開通により、来訪者への電話などへのご案内の際には、以前よりお伝えし易くなりました。また、移動時間の短縮に関して、来訪者から嬉しい声を聞くことが多くなりました。(浜松市内団体)

資料: 2019年7月ヒアリング調査結果

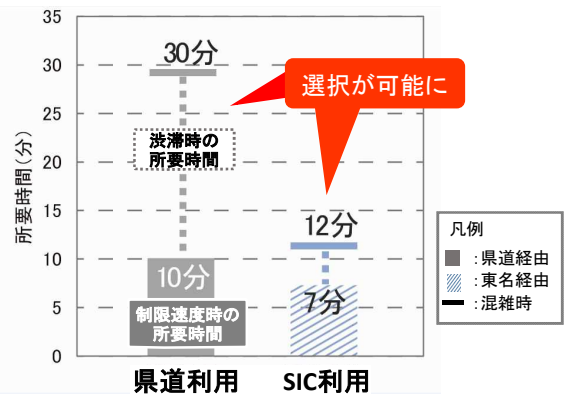
静岡県内スマートICの整備効果 ルート選択の増加による利便性・定時性の向上

- スマートICの開通により、利用者の都合に合わせて一般道と、高速道路の選択が可能に。
- 高速道路を利用することで、経路上の主要渋滞箇所を回避することができ、より自由な移動が実現。

事例1: 富士川スマートIC (2007年4月1日開通)



《富士IC～富士川駅間の所要時間の変化》



資料：全国道路・街路交通情勢調査(H27)

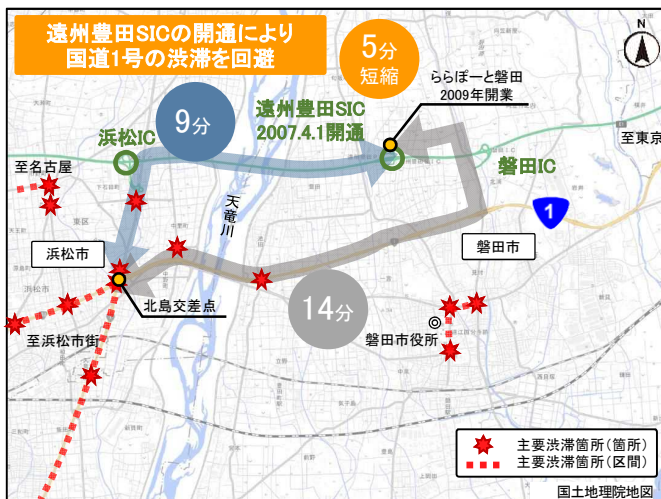


【富士市職員の声】

・従来、一般道を通行していた、比較的短いトリップの交通が高速道路を利用するようになり、特に通勤時間帯において、県道富士川身延線、県道富士由比線(富士川橋)の混雑が緩和されました。

資料：2019年7月ヒアリング調査結果

事例2: 遠州豊田スマートIC (2007年4月1日開通)



《北島交差点～ららぽーと磐田間の所要時間の変化》



資料：全国道路・街路交通情勢調査(H27)



【商業施設職員の声】

・商圈エリアが広がり、広域集客が可能となり、売上・客数増へ繋げることが出来ました。ETCを利用して来館していただいているお客様に対する販促施策の仕掛け作りを展開をすることで他施設との差別化を図ることが出来ました。

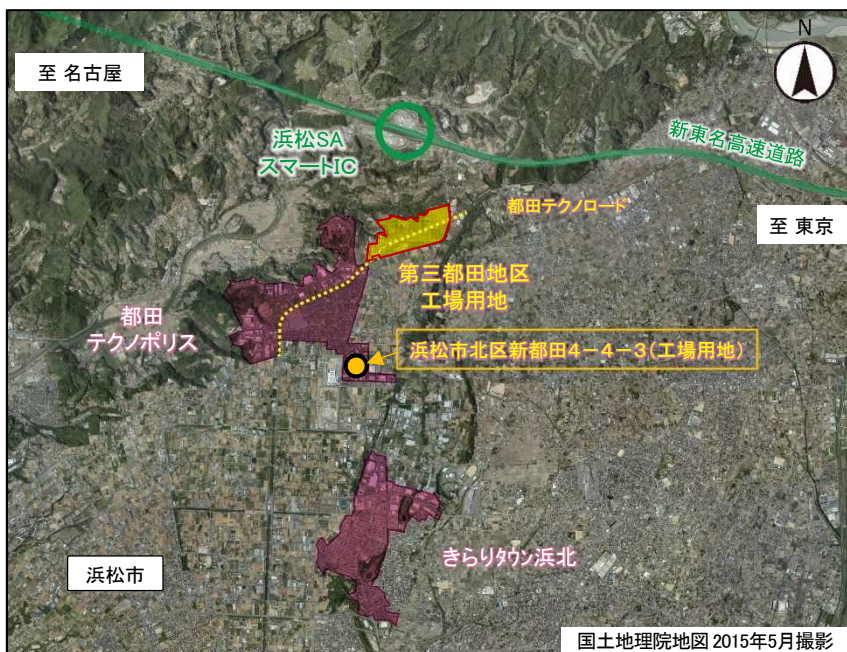
・スマートICは、従業員の通勤、商品入荷、製品の納品配達での利用しています。

資料：2019年7月ヒアリング調査結果

静岡県内スマートICの整備効果 沿線開発後の企業誘致を支援

- スマートIC周辺では、企業立地が進行。製造品出荷額が増加し、地域が活性化。
- 工業団地では企業誘致が進み、浜松市北区における製造品出荷額の増加や土地の資産価値が上がるなど、計画的な地域の開発に貢献。

事例：浜松SAスマートIC周辺の変化（2012年4月14日開通）



■浜松SAスマートIC付近に企業が進出

- ・浜松市では第三都田地区工場用地を分譲中。
- ・2019年7月現在、分譲面積の約88.3%が売却済み。
- ・周辺地区では、2018年に大手自動車メーカーなどの工場が集積。そのほか、企業進出が見込まれ、今後も製造品出荷額の増加に期待。

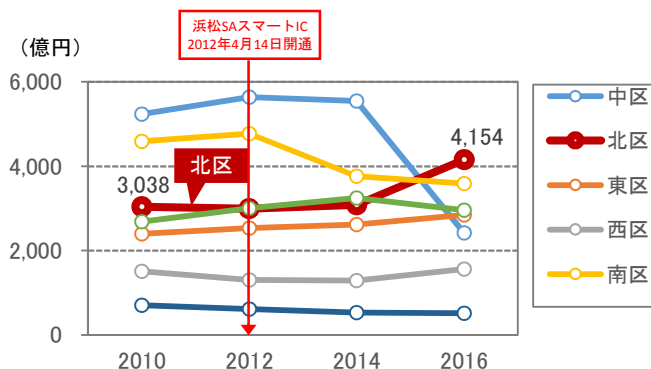
《第三都田地区工場用地の概要》

- ・分譲可能面積が約35ha(東京ドーム約7個分)
- ・新興住宅地のきらりタウン浜北、約80社が集まる都田テクノポリス(工業団地)に隣接

資料：静岡県ホームページ
第三都田地区工場用地/パンフレット(浜松市)
2019年7月ヒアリング調査結果

■浜松市行政区別の製造品出荷額の推移

- ・スマートICのある浜松市北区では、製造品出荷額が増加
- ・北区では、製造拠点の進出や移転が進み、浜松市行政区別では製造品出荷額がトップ

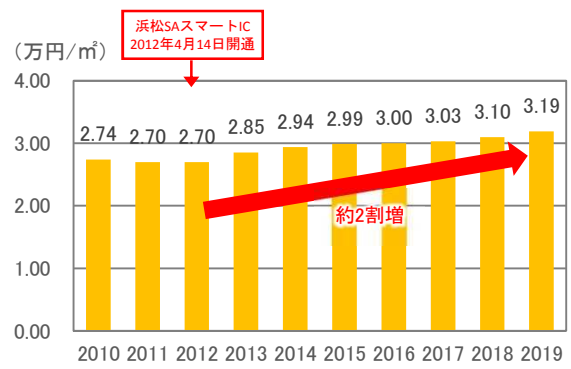


資料：工業統計

■浜松SAスマートIC付近での土地の資産価値の推移

- ・浜松SAスマートICが開通した2012年以降に公示地価は増加傾向

場所：浜松市北区新都田4-4-3(工場用地)



資料：国土数値情報(地価公示データ)

【浜松市職員の声】



・第三都田地区工場用地内の土地を購入した大手機械メーカーからは、「全国から拠点工場建設地を選定する際、浜松市は輸送機器に関する金属加工業が多く、優秀なサプライチェーンを構築できると考えられるため、工場立地の決定をした」と聞いています。

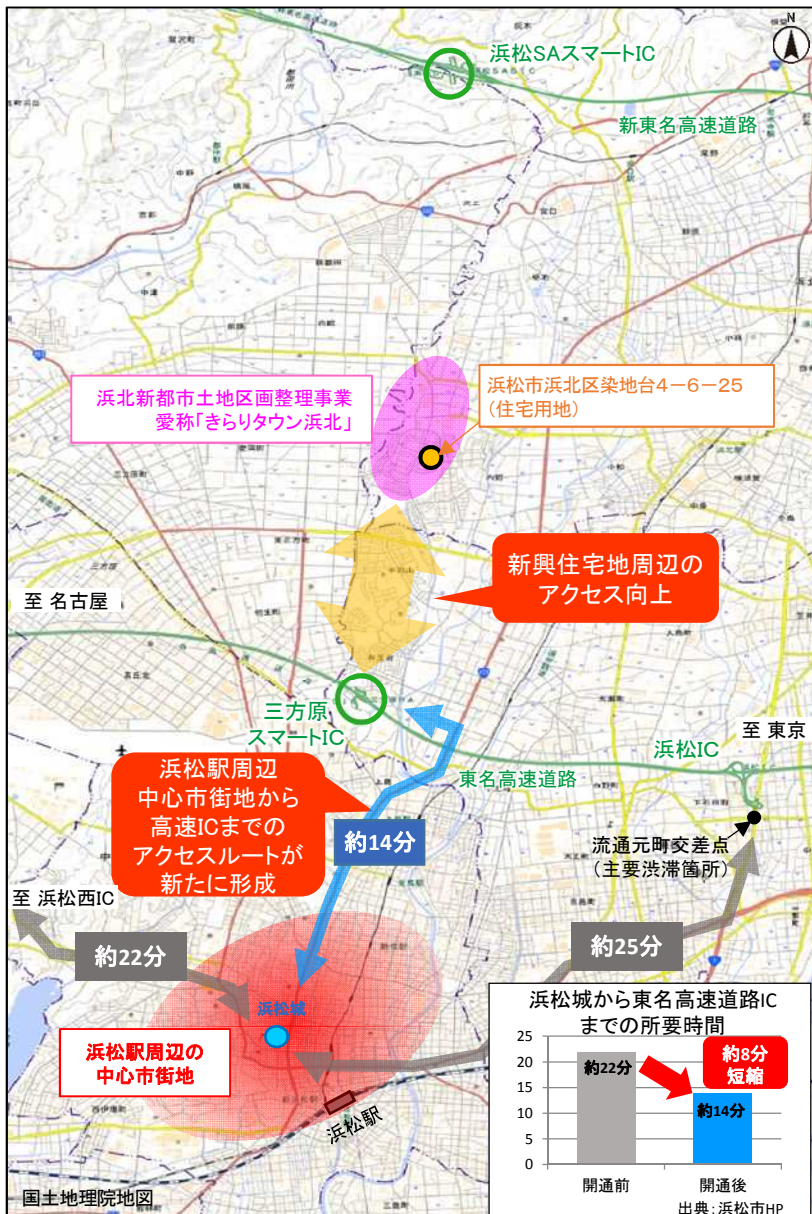
・新東名の中では、政令市で人が来やすい場所にあることも立地が多い理由と考えられます。

資料：2019年7月ヒアリング調査結果

静岡県内スマートICの整備効果 地域の活性化を支援

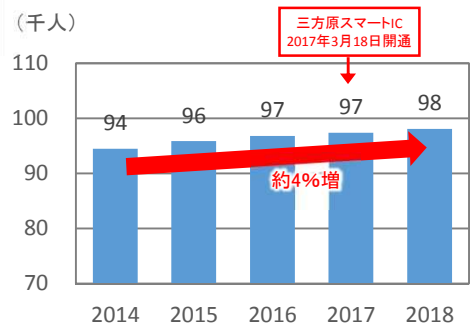
- スマートIC周辺で新興住宅地が開発され、人口は増加傾向。また、土地の資産価値が上がるなど、地域の魅力が向上。
- 浜松駅周辺の中心市街地から高速ICまでのアクセスが向上。

事例：三方原スマートIC周辺の変化（2017年3月18日開通）



■ 浜松市浜北区の人口の推移

・新興住宅地「きらりタウン浜北」のある浜北区の人口は増加傾向。

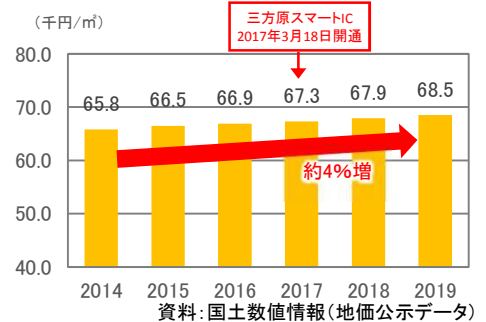


資料：静岡県市町村別推計人口、国勢調査

■ 新興住宅地での土地の資産価値の推移

・土地の資産価値は、上昇傾向。

場所：浜松市浜北区染地台4-6-25(住宅用地)



資料：国土数値情報(地価公示データ)

参考：「きらりタウン浜北」
事業名：浜北新都市土地区画整理事業
事業主体：独立行政法人都市再生機構
施行面積：約161.7ha
施工期間：2000年度～2017年度
資料：「浜北新都市土地区画整理事業」パンフレット(浜松市)

【浜松市職員の声】

・三方原スマートICについては、隣接する浜松IC、浜松西ICから三方原スマートICに交通転換が図られ、主要渋滞箇所である浜松IC出入口に近接する「流通元町交差点」は、渋滞が緩和されました。

資料：2019年7月ヒアリング調査結果



静岡県内スマートICの整備効果 救急医療活動を支援

- 静岡県内の高次医療施設全26箇所のうち、9箇所以最寄り的高速道路ICがスマートICにかわり、アクセスが向上。
- 富士市消防本部では、救急出動や患者搬送時に152件(2018年度)のスマートIC利用があり、救急医療活動に貢献。

静岡県内の高次医療施設一覧



静岡県内高次医療施設における最寄りICの変化

| 病院名 | 種別 | 最寄りのIC | | | 時間短縮(分) |
|----------------|------------|---------|--------|----------|---------|
| | | SIC | 距離(km) | 東名既存IC | |
| 総合病院聖隷浜松病院 | 救命救急センター | 三方原 | 4.4 | 浜松西 6.9 | 4 |
| 浜松医療センター | 救命救急センター | 三方原 | 7.3 | 浜松西 7.6 | 1 |
| 浜松市夜間救急室 | 休日夜間急患センター | 三方原 | 6.6 | 浜松 9.7 | 5 |
| 藤枝市立総合病院 | 救命救急センター | 大井川焼津藤枝 | 6.8 | 藤枝岡部 9.1 | 4 |
| 志太榛原地域救急医療センター | 休日夜間急患センター | 大井川焼津藤枝 | 5.3 | 焼津 8.9 | 5 |
| 静岡市済生会総合病院 | 救命救急センター | 日本平久能山 | 2.1 | 静岡 4.5 | 4 |
| 静岡市急病センター | 休日夜間急患センター | 日本平久能山 | 3.4 | 静岡 5.8 | 4 |
| 御殿場市救急医療センター | 休日夜間急患センター | 足柄 | 2.7 | 御殿場 3.1 | 1 |
| 沼津市立病院 | 救命救急センター | 愛鷹 | 2.4 | 沼津 6.0 | 5 |

【富士市消防本部職員の声】



- ・富士市消防本部における救急出動件数は、近年、年間10,000件程度で推移しています。
- ・2018年度は、救急出動や患者搬送時に152件スマートICを利用しています。
- ・スマートIC開通前は、既存ICから病院までが遠く、国道1号バイパスを使った方が早く搬送できていたため、東名高速道路を搬送ルートに設定していませんでした。
- ・現在では、沼津市立病院への搬送時に愛鷹スマートIC、共立蒲原総合病院への搬送時に富士川スマートICを使用する場合があります。

資料:2019年7月ヒアリング調査結果

※時間の短縮については、時速40kmとして距離の短縮より算出

病院は第8次静岡県保健医療計画【2018年度～2023年度】(静岡県)

静岡県内スマートICの整備効果 災害時のリダンダンシー向上

- 災害時における、中部版「くしの歯作戦」による復旧支援ルートの形成の際、新東名高速道路、東名高速道路からの復旧支援ルートとして、スマートICが使用可能に。
- 高速道路と広域物資拠点のアクセスが複数利用できることでリダンダンシー[※]向上に寄与し、災害時の機能強化に貢献。

くしの歯作戦(静岡県)による復旧支援ルート図



資料：道路管理防災・震災対策検討分科会(国交省中部地方整備局)

※リダンダンシーとは

「冗長性」、「余剰」を意味する英語であり、国土計画上では、自然災害等による障害発生時に、一部の区間の途絶や一部施設の破壊が全体の機能不全につながらないように、予め交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備の手段が用意されている様な性質を示す。

(参考)ヘリポートを活用した防災訓練の実施



静岡県警航空隊中型ヘリ(駿河湾沼津SA)

東名・新東名の休憩施設には、防災救急機能の一つとしてヘリポートを整備。大規模災害時に備え、休憩施設のヘリポートを活用した防災訓練を実施。

「新東名において実施した主な訓練」

実施日：(休憩施設)：訓練の名称

- ①H24. 5.30：(浜松SA)：静岡県西部危機管理局防災訓練
- ②H24. 9. 2：(遠州森町PA)：静岡県総合防災訓練
- ③H25. 2. 5：(駿河湾沼津SA 他5箇所)：静岡県航空支援訓練
- ④H25. 2. 7：(浜松SA)：南海トラフ巨大地震対策中部ブロック協議会広域防災訓練
- ⑤H26. 2.22：(浜名湖SA・浜松SA)：平成25年度静岡県航空支援訓練

静岡県内スマートICの整備効果

【参考】東名高速道路 スマートIC周辺の航空写真

